

対象年度	令和 7年度		総合計画実施計画策定及び行政評価シート				
事務事業名	市営住宅維持改修事業					予算事業名	市営住宅維持改修事業費
予算科目	会計	01	款	項	目	事業	要求区分 経常経費
			08	04	01	1105	
総合計画体系	住みたい・住み続けたい 安全・快適な都市を目指そう 快適で住みやすいまちづくり 良質な住宅地の整備					根拠法令	公営住宅法 結城市営住宅の設置及び管理に関する法令
						事業の区分	主要事業
						担当課係等	都市計画課 住宅公園係
事業期間	継続 (昭和33年度～ 年度)						
【めざす姿 (意図・どのような状態になるのか)】				【事業開始のきっかけや他市の状況など】			
市営住宅マスタープラン (長寿化計画) に基づき、老朽化の著しい市営住宅の屋根・外壁の対策を行うことにより、建物を常に健全な状態に保ち長寿化を図る。また、入居者が退去した際には、内装や水回りを修繕し、常に入居できる快適な住環境を維持する。				市営住宅の供用開始から維持管理を行っている。住宅の老朽化が著しいため、平成23年度より屋根・外壁などの長寿化工事を行っている。また、内部は老朽化により損傷が激しいため、退去時に修理を行っている。			
【手段 (事業内容・どのようなことを行うのか)】				【対象 (だれに対して・何に対して行うのか)】			
<ul style="list-style-type: none"> <li>市営住宅屋根・外壁長寿命化改修工事 【城西アパート、かなくぼ住宅】</li> <li>退去時修繕 【内装、水回り】</li> </ul>				市営住宅入居者 (入居希望者を含む) 及び市営住宅 (敷地・建物) 総数331戸 5団地			
				【事業をとりまく環境の変化】			
				入居の需要が高いため、今後も良好な住環境の保全と施設運営が必要である。長寿化工事により建物の外部ハード面を健全な状態にしているが、内装及び設備は老朽化しており、今後修繕費は増加する傾向である。城西アパートも築20年以上が経過しており、外壁からの雨漏りもあり、修理を必要としている。また、高齢の入居者が増えており、バリアフリー化対策も急務である。			
【令和 7年度 事業内容】		【令和 8年度 事業内容】			【令和 9年度 事業内容】		
市営住宅屋根・外壁長寿命化改修工事 ・かなくぼ住宅 5棟 緊急修繕 ・市営住宅 331棟		緊急工事 緊急修繕 ・市営住宅 331棟			緊急工事 緊急修繕 ・市営住宅 331棟		
■ 事業費							
財源内訳	国庫支出金	R05年度	13,181	R06年度	28,180		
	県支出金		0		0		
	地方債		16,100		34,400		
	その他		8,500		8,000		
	一般財源		48,908		43		
歳入計 (千円)			86,689		70,623		
歳出内訳	節 (番号 + 名称)	金額 (千円)		金額 (千円)			
	10 需用費	8,496		8,000			
	14 工事請負費	78,193		62,623			
歳出計 (千円) (A)			86,689		70,623		
伸び率 (%)					-18.53		
備考	総合計画 68 ページ 予算書 151 ページ						

# 令和 5年度行政評価シート

## ■指標

種類	指標名	単位		R05年度	R06年度	R07年度
活動 指標	管理戸数	戸	目標	331.00	331.00	331.00
			実績	331.00	0.00	0.00
	長寿命化棟数	棟	目標	3.00	3.00	5.00
			実績	3.00	0.00	0.00
成果 指標	安全で快適な住環境の維持	戸	目標	331.00	331.00	331.00
			実績	331.00	0.00	0.00
	長寿命化率	%	目標	86.20	91.40	100.00
	長寿命化対象棟数：58棟		実績	86.20	0.00	0.00

## ■事業評価

必要性	事業の必要性	A 必要性は高い	老朽化した市営住宅を「市営住宅マスタープラン」に基づき、計画的に長寿命化改修工事を行うことで、建物の耐久性向上や長寿命化を図る必要がある。
妥当性	実施主体の妥当性	A 妥当である	市の所有する建物となるため、妥当である。
	手段の妥当性	A 妥当である	施設を健全化するうえで適当であり、妥当である。
効率性	コストの効率性・人員効率	A 改善の余地はない	現地の状況やコスト面を考慮し、効率性を考えつつ適切に工事を行っている。
公平性	受益者の偏り	B どちらとも言えない	計画と現地調査により長寿命化工事の施工順番を決定しているため、施工時期にズレが生じてしまう。
有効性	成果向上の余地	B どちらとも言えない	建物外部の工事を実施しており、内部については退去後の修繕となるため、大規模な改修工事の実施について検討が必要である。
進捗度	事業の進捗	B どちらとも言えない	交付金の配分額が少ないと、工事箇所の見直しを行わなければならないと、計画どおりに工事を行えないことがある。
総合評価 上記評価を踏まえて事業全体について評価し、問題点・課題等を指摘してください			
財源が社会資本整備総合交付金交付であるため、配分により工事の実施が影響されてしまう。このことを踏まえ、担当課で国費の追加要望を行っている。 また、以前長寿命化工事を行った市営住宅が更新の時期を迎えるため、市営住宅の今後についても検討していかなければならない。			
対応策提言等 この事業を今後どのように改善・改革をしていきますか			
国費の増額要望及び起債等、財政部局の協力が必要不可欠となるため、早期の工事発注を行い、今後の見通しを立てやすくする。 また、市営住宅の入居者の高齢化が顕著であるため、介護部局との連携を密にするとともに、市営住宅の集約や民間活用などを踏まえ、市営住宅マスタープランの改定を行う。			

## ■方向性

<p>1次評価（1次評価者として判断した今後の事務事業の方向性（改革・改善策））</p> <p><input type="checkbox"/> 拡充（人・モノ・カネ等の拡充） <input checked="" type="checkbox"/> 改善改革しながら継続 <input type="checkbox"/> 現状のまま継続（改善・改革なし） <input type="checkbox"/> 統合・新規事業への展開</p> <p><input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 廃止・終了 <input type="checkbox"/> 予定どおりの要求 <input type="checkbox"/> 一部改善の上要求 <input type="checkbox"/> 今回は見送り <input type="checkbox"/> その他の処置</p> <p>方向性の具体的内容 老朽化している市営住宅に対し、長寿命化計画に基づき計画的に改修工事を実施するとともに、緊急及び退去時の修繕を迅速に実施していく。今後は、本市のコンパクトシティ化を推進するために、市街地への建替えや団地の集約の検討が必要である。（令和7年度改定予定の市営住宅マスタープランで方向性を検討する）</p>
<p>2次評価（2次評価者として判断した今後の事務事業の方向性（改革・改善策））</p> <p><input type="checkbox"/> 拡充（人・モノ・カネ等の拡充） <input type="checkbox"/> 改善改革しながら継続 <input type="checkbox"/> 現状のまま継続（改善・改革なし） <input type="checkbox"/> 統合・新規事業への展開</p> <p><input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 廃止・終了 <input type="checkbox"/> 予定どおりの要求 <input type="checkbox"/> 一部改善の上要求 <input type="checkbox"/> 今回は見送り <input type="checkbox"/> その他の処置</p> <p>企画調整会議の意見・考え方（1次評価者と同じ場合も記入） 上記評価のとおり</p>